平成 24 年 10 月 15 日

各　　位

会 社 名　アストマックス株式会社
代表者名　代表取締役社長　本多　弘明
（大証 JASDAQ・コード７１６２）
問合せ先　常務取締役　小幡　健太郎
（電 話　03-5447-8400）

平成 25 年３月期９月度の月末運用資産残高及び運用収益率のお知らせ

今期（平成 25 年３月期）９月度のプログラム別月末運用資産残高及び運用収益率につきまして、添付のとおりお知らせいたします。

当社（アストマックス株式会社）は、平成 24 年 10 月１日付で株式移転により持株会社として設立されました。本お知らせは、旧アストマックス株式会社（証券コード：8734）に係るお知らせとなります。

９月の商品市況は、底堅い展開となりました。６日には欧州中央銀行（ECB）が重債務国の国債買い取りを条件付きで無制限に行うことを決定する一方、14 日には米連邦準備制度理事会（FRB）が、住宅ローン担保証券（MBS）を月額 400 億ドル買い入れると発表し、更にインフレが抑制される限り、労働市場の見通しが大幅に改善されるまで資産買い入れを継続するとしたことを受けて、株式市場や商品市場に投資資金が流入し、月中に掛けて株価と商品価格は上昇しました。しかし、事前に金融緩和期待を背景に上昇していたこともあり、その後は利益確定売りが優勢となるなか、月末に掛けて下落に転じました。また、米国での干ばつを背景に急騰が続いていた穀物相場に一服感が出たことや、四半期末を前に投資家による手仕舞い売りが加速したことも下落につながりました。

当社が公表しております円建てのアストマックス商品指数（AMCI）は、商品価格の上昇基調を背景に、８月末の 326.356 に対し、９月末は 339.282 と約 3.96%の上昇となりました。

エネルギー市場では、９月初めの ECB による重債務国の国債買い入れや FRB による住宅ローン担保証券の購入を材料に上値を試す場面もありましたが、その後は材料出尽くし感から、WTI 原油が９月 14 日に 99 ドルまで上昇したあと調整に入り、９月末には 92 ドル台前半にまで下落しました。一方、世界の原油市場のベンチマークの一つであるブレント原油は、北海ブレント原油の生産・供給に支障が出ていることに加え、中東地域での原油生産に支障が生じるとの懸念を背景に 110 ドルの節目を概ね維持するなど、油種間での強弱感が鮮明になりました。

貴金属市場では、金価格が上昇基調を維持するなか、米金融当局による金融緩和策の導入を背景に投資家の買いを集め、一時１トロイオンス＝1,790 ドルまで上昇しました。一方、プラチナ価格も世界最大のプラチナ生産国である南アフリカでの労働者によるストライキを背景とした減産懸念を背景に強基調が続き、プラチナ価格は一時 1,700 ドル台を回復する場面もありました。

非鉄金属市場は、欧米金融当局による政策導入を材料に買いが優勢となり、上昇しました。世界最大の非鉄消費国である中国では、1,500 億ドルに相当するインフラ関連プロジェクトが承認されたことで、非鉄需要が回復するとの期待も価格を押し上げました。

穀物市場は、米国産地での干ばつを背景とした収穫高の減少懸念を織り込む一方、収穫期における農家の売り圧力が強まったことを受けて、下落に転じました。

９月の株式市場では、ECB による重債務国の国債買い入れや FRB による追加緩和策の導入決定を受けて、投資家の買いが膨らみ、欧米株は大きく上昇しました。一方、日本の株式市場もこれらの動きに追随する形となり、TOPIX が月中に一時 769.54 と、前月の高値水準にまで上昇する場面もありました。しかし、その後は円高傾向や材料を織り込む形で売りが出たことで下落に転じました。TOPIX は８月末の 731.64 に対し、９月末は 737.42 と 0.79%の上昇となりました。

当社が運用する資産残高は、９月末に掛けての商品価格の下落など受けて資産が減少し、前月比 1,987 百万円減（5.19%減）の 36,344 百万円となりました。

また、平成 24 年８月１日付で当社の 100%子会社となったマネックス・オルタナティブ・インベストメンツ株式会社（平成 24 年 10 月１日付でアストマックス投資顧問株式会社に商号変更）の運用資産残高（概算値含む。）は、33,024 百万円となりました。

尚、個別の運用資産残高、運用収益率は以下のとおりとなっております。

１．運用資産残高

（単位：百万円）

プログラム名			平成24年4月	平成24年5月	平成24年6月	平成24年7月	平成24年8月	平成24年9月
投資顧問事業	商品	アストジェネシス	794	779	779	785	784	586
		AMCI	18,881	17,006	16,609	17,287	18,213	17,407
		コモディティ・バスケット型	397	353	354	377	370	336
		WTI 原油先物連動型	4,682	4,786	3,697	5,355	5,892	5,957
		金先物連動型	3,655	3,325	3,478	3,555	3,670	3,863
	証券	債券運用戦略等	9,241	8,659	8,471	8,458	8,691	7,483
		ポートフォリオ･マネジメント	725	709	709	709	709	709
合計			38,378	35,620	34,099	36,528	38,332	36,344

プログラム名			平成24年10月	平成24年11月	平成24年12月	平成25年1月	平成25年2月	平成25年3月
投資顧問事業	商品	アストジェネシス						
		AMCI						
		コモディティ・バスケット型						
		WTI 原油先物連動型						
		金先物連動型						
	証券	債券運用戦略等						
		ポートフォリオ･マネジメント						
合計								

※平成 24 年８月１日付で当社の 100%子会社となったマネックス・オルタナティブ・インベストメンツ株式会社（平成 24 年 10 月１日付でアストマックス投資顧問株式会社に商号変更）の運用資産残高（概算値含む。）は、以下のとおりです。

・商品投資顧問事業：　12,445 百万円
・証券投資顧問事業：　20,579 百万円

２．運用収益率

プログラム名			平成24年4月	平成24年5月	平成24年6月	平成24年7月	平成24年8月	平成24年9月
投資顧問事業	商品	アストジェネシス	-1.13%	-1.74%	-0.17%	0.90%	0.08%	-1.71%
	証券	該当なし	－	－	－	－	－	－

プログラム名			平成24年10月	平成24年11月	平成24年12月	平成25年1月	平成25年2月	平成25年3月
投資顧問事業	商品	アストジェネシス						
	証券	該当なし						

（注）１．上記の数値は原則、毎月月初より10営業日までに開示いたします。
２．運用資産残高は純資産総額、またはノーショナル・エクイティ(想定運用資産)を意味し、表示単位未満を切り捨てて表示しております。
＊ 先物市場を使った運用の場合、実際に証拠金として必要な資金が少額であることから、顧客によっては実際に預託する資金ではなく想定する資産額で運用する様に契約上取り決めることが多く、その場合、この契約運用資産額が管理報酬の計算上のベースとなっています。この様に顧客からの資金の預託にかかわらず顧客との契約に基づき想定される運用資産額をノーショナル・エクイティ（想定運用資産）と言います。
３．複数の契約が存在する運用プログラムについては当該プログラムのコンポジットを作成し運用資産残高、運用収益率を算出しております。また、運用収益率は、成功報酬を伴う運用プログラムについてのみ掲載しております。
４．総運用資産残高につきましては１％以上の修正が生じた場合はその内容を開示いたします。
５．「債券運用戦略等」には、顧客の運用方針に従い、当社が運用を担当している外国籍投資信託への投資に関する運用指図を行う契約残高を含んでいます。

以上